

ハルナグループのSDGs達成に向けた活動

ハルナグループは創業以来、基本的使命のひとつとして「人と地球環境と地域社会の健康のために」を掲げ、環境整備活動や環境会計を導入してCO₂の削減やリサイクル化の向上、教育や福祉を通じた社会貢献活動など様々な活動を行ってまいりました。そして2018年、皆様の暮らしや社会全体を最適化した未来社会の実現を目指した経団連の企業行動憲章に賛同し、Society 5.0の実現を通じたSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取り組みを行わせていただくため、2019年4月に「ハルナグループSDGs行動宣言」を公表し取り組みを通じて実現を目指しています。

comment

ハルナプロデュース株式会社 取締役 古市 直也



SDGsは、国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた、「持続可能な開発目標」のことであり、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3側面に対して世界共通の目標が設定されています。
ハルナグループは社員ひとり一人が事業活動を通じて、SDGsの目標の達成に貢献できるよう取り組みを推進しています。「誰ひとり取り残さない」世界の実現を皆様と共に目指していきたいと考えております。

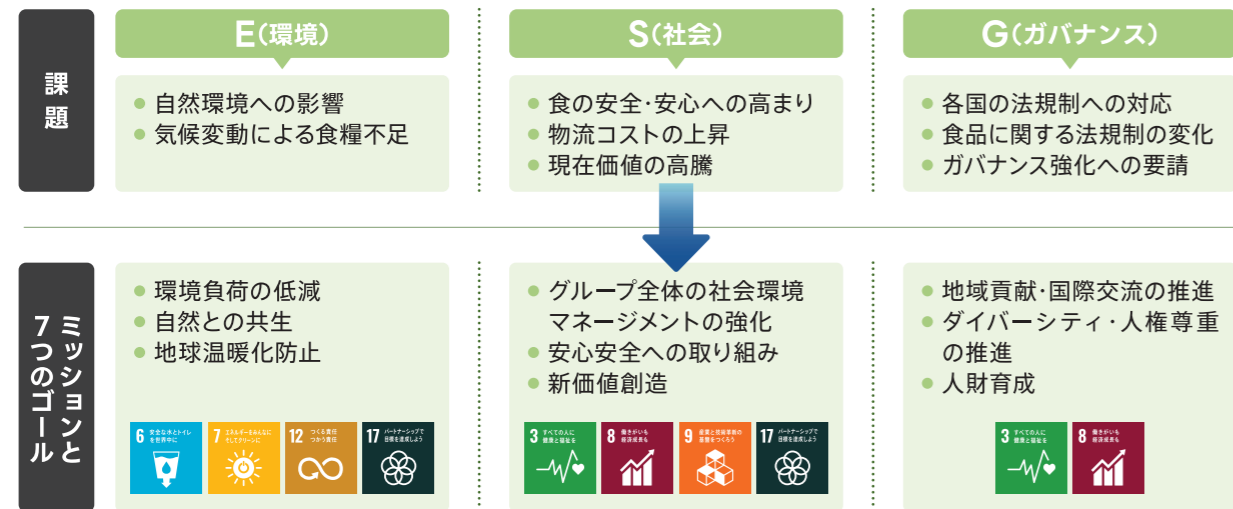
「SDGs推進委員会」で課題の解決と進捗を共有

ハルナグループは事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指すべく、2019年から「SDGs推進委員会」を立ち上げ、社会課題の解決に向けて必要な体制を整備し、PDCAを回しています。ハルナグループ全役員・社員が参加し取り組みを強化しています。課題への対応については、まずはSDGs実務者会議で当社の主要7項目の目標に即して重点課題を設定し、グループ全体の進捗の共有を行うとともに、各部門が事業活動における自主的な取り組みを推進しています。SDGs委員会が中心となってステップを踏みながら社会課題の解決により社会的責任を果たすとともに、企業の価値向上と持続的成長への挑戦を推し進めています。

SDGs実務者会議において、各拠点・各部署から選出された委員が集まり、取り組み方法や目標を協議し、SDGs推進委員会に上程しすすめています

ハルナグループの重要課題への取り組み・目標 主要7項目

ハルナグループのサステナビリティ価値創造プロセス



7つのゴール 2023年度目標に各取り組みの達成率

3	業務活動での酒気帯びの根絶	100%	平均達成率 98%	9	JR東日本とのミネラルウォーター事業	100%	平均達成率 87%
	通勤労災ゼロ件	100%			海外との取り組み	60%	
	エコキャップ活動	100%			タイ国との国際資源を用いた商品開発	100%	
	社員の健康リスクの軽減と支援	90%			新たな提携国との取り組み	100%	
6	水を効率的に使用	100%	平均達成率 100%	12	HdXの取り組み	75%	平均達成率 63%
	排水適生管理による環境負担低減	100%			環境配慮資材の取り組み	100%	
	水資源を保全	100%			フードロス削減	93%	
7	エネルギー消費の低減と再生可能エネルギー活用	100%	平均達成率 93%	17	資源循環	50%	平均達成率 100%
	エネルギー資源、地球温暖化防止	100%			海外への技術支援・環境保護支援	10%	
	エネルギー効率を向上させる	80%			NPOなどを通じた寄付、メセナ活動	100%	
8	有給休暇取得促進	78%	平均達成率 74%	17	ESGプロセスの着実な進捗を実現する	100%	平均達成率 100%
	時間外労働時間削減	67%			生産活動の見学や職場体験の提供	100%	
	障害者雇用の推進	53%			社会基盤を支え続け社会的価値創造	100%	
	介護休業制度の拡充	100%					

※達成率については、2023年度の自社の各取り組み項目の目標に対して数値結果および定性結果を自主評価しました

外部機関からの評価

サステナブル・スケール・インデックス(SSI)の評価

横浜銀行様とふくおかフィナンシャルグループの100%子会社である株式会社サステナブルスケール社様が連携し、企業のSDGsに関する取り組みを評価する「サステナブル・スケール・インデックス(SSI)」にてハルナグループを評価していただきました。
具体的なスコア結果等は開示することはできませんが、当グループの取組みについてレビューをしていただき、下記のとおり17項目に対して全ての取組みを実行しているという高い評価をいただきました。



▲ 実施証明書

<ul style="list-style-type: none"> CSR/サステナビリティ関連部署の設置 SDGsに関する研修、廃棄物管理(3R)に関する研修、人事制度とエンゲージメントに関する研修 統合報告書等の社外向けレポートの発行 	<ul style="list-style-type: none"> 寄付活動の実施 コミュニティ投資の実施 不正競争防止規程の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 健康食品、有機食品等の取扱 地域産資源の積極使用 材料・調達に関する環境基準の策定
<ul style="list-style-type: none"> 安全衛生方針の策定 材料・調達に関する環境基準の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員の研修及びキャリア開発をサポートする会社方針の策定 地域の教育に貢献する活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー平等に関する方針の策定 コンプライアンスやハラスメントに関する相談窓口や通報窓口の設置
<ul style="list-style-type: none"> どのプラントもほぼ地下水を使用しており、原単位で削減目標を立て実施している 水の使用効率に関する目標の設定 水の再利用実施 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー削減を省エネ改善や省エネパトロールを行っている エネルギー使用効率目標の設定 	<ul style="list-style-type: none"> フレックスタイム制の導入 人権に関する基本方針の策定 障がいを持つ従業員の採用
<ul style="list-style-type: none"> 3拠点の燃料転換や再生エネルギー導入を行ってきました 照明器具のLED化 環境配慮型の製品やサービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスやハラスメントに関する相談窓口や通報窓口の設置 コミュニティ投資の実施 不正競争防止規程の策定 	<ul style="list-style-type: none"> BCP計画の策定
<ul style="list-style-type: none"> 化学物質のリスクアセスメントの取り組みを実施している 材料・調達に関する環境基準の策定 前年度廃棄物排出量原単位-1%削減、チャレンジ目標-2%削減 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー削減を省エネ改善や省エネパトロールを行いCO₂削減に繋げている 	<ul style="list-style-type: none"> 河川の清掃による河川に住む生物への影響軽減、ホタルを守る取り組み活動の実施 定期的(1回/月)に外部検査機関で排出量の検査を実施し、その検査データに基づき削減を行っている 前年度排水量原単位-1%削減、チャレンジ目標-2%削減
<ul style="list-style-type: none"> 河川の清掃による河川に住む生物への影響軽減、ホタルを守る取り組み活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 法令順守の徹底 汚職・賄賂収行為を禁止する社内規定の策定 社会貢献活動に関する会社方針の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 地元人材の積極的採用 地域の産業振興に関する事業の参画 地域の福祉・スポーツ・芸術活動に対し、協賛・寄付や活動の実施

みずほ銀行「SDGs推進サポートローン」による資金調達の実施

2024年5月みずほ銀行様による当社のSGDsに関する取り組みについて診断を受け、今後も下記活動に取り組んでいくことを条件として契約締結に至ったものです。
持続可能なESG経営の推進を掲げ多様な事業を通じて環境・社会課題の解決に努めることで、今後も持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

当社の取り組み

- 水の使用量の継続した削減
- CO₂排出量の削減
- 環境保全活動を毎年実施



環境のためにできること

環境におきましては、待ったなしと言われる気候変動問題や急速な生態系の変化、資源の枯渇等の様々なリスクや問題が地球規模で発生しています。そのような環境下において、ハルナグループは環境の基本理念である「人と生態系との共存」を念頭に気候変動・エネルギー問題・水資源問題への取り組み、廃棄物問題、生物多様性保全をハルナグループSDGs活動をとおり、持続可能な環境・社会の実現に貢献できるように継続的に取り組んでまいります。

エネルギー消費の低減と再生可能エネルギーの活用

01

目標 2025年度までにCO₂排出量41%削減
(2014年度生産液量あたりのCO₂排出量原単位比)

● 太陽光発電の設置

ハルナグループでは、2023年2月よりハルナプラント・タニガワプラント・和歌山プラントに続き、2024年2月は長野県の松川プラントにも太陽光発電設備の導入を実施しています。現在国内工場4拠点到設置し、カーボンニュートラルに向け更なる拡大を含め取り組みを進めています。



▲HPハルナプラント ▲HPタニガワプラント ▲HP和歌山プラント ▲HW松川プラント

自家消費型太陽光発電システムのオンサイトPPAモデルを採用し、再生可能エネルギー電気の使用が可能となりました。年間発電電力量は合計約198万kWh、発電した電力の全量を自家消費することで、合計約840トンのCO₂排出量を削減できる見込みです。

電力需要の変動や燃料問題に左右されない長期にわたる安定電源の確保にもつながります。また、定置用蓄電池を併設しており、停電時にも太陽光発電システムから必要な電力を供給することができるため、CO₂削減とBCP対策の一部に対応しています。

※PPA(Power Purchase Agreement)の略:電力購入契約

2023年度実績 生産液量あたりのCO₂排出量57.8kg-CO₂/kl (2014年度 97.8kg-CO₂/kl)

※2023年7月より、ハルナウォーター(安曇野プラント・松川プラント)のグループ化に伴い、2023年7月実績より反映しています。

限りある水資源を持続的に使用する

02

目標 2025年度までに30.0%削減
(2014年度ケースあたりの水使用量原単位比)

ハルナグループの事業活動に欠かせない自然資源の「水」を有効活用し、地球環境を持続可能な形で次の世代へ引き継いでいくことを重要な使命と捉え、水資源の保護と豊かな水資源を次世代へ引き継ぐために継続的に取り組みを進めて参ります。

2023年度の具体的な活動と実績

- ハルナプラント
PETボトル洗浄のための洗浄ノズルを節水ノズルへ変更。節水量 1,500t/年
- タニガワプラント
PETボトル冷却で使用しているバスタ水をボイラー給水に再利用。節水量 53t/年

2023年度実績

ケースあたりの使用水量：0.084t/ケース(2014年度 0.113t/ケース)

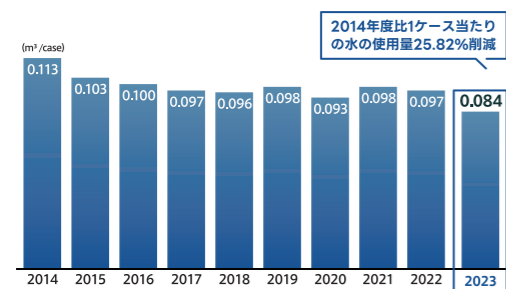
水の使用量：25.82%削減(2014年度ケースあたりの水使用量原単位比)

※2023年7月より、ハルナウォーター(安曇野プラント・松川プラント)のグループ化に伴い、2023年7月実績より反映しています。

水資源の重要性と環境保全活動

目標項目	2023年度
限りある水資源を持続的に使用する	2014年度比25.82%削減
排水適性管理による下流域環境負担軽減	排出基準逸脱ゼロ
水資源の保全	各地域清掃活動実施やボランティア清掃活動の参加
水に関連する生態系の保護	群馬県唐沢川や用水路の清掃実施

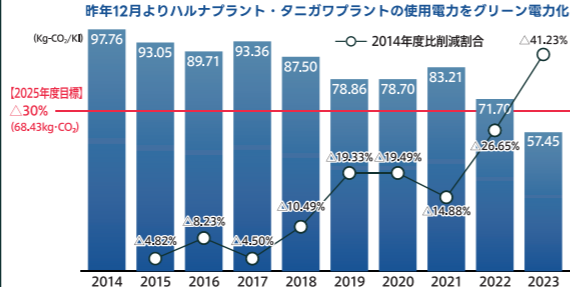
1ケース当たりの水の使用量の推移



省エネルギーと再生可能エネルギーの活用

目標項目	2023年度
CO ₂ 削減	CO ₂ 削減:2014年度比41.23%削減
循環型社会の構築	ハルナ・タニガワ・和歌山プラント2023年1月稼働開始 ハルナウォーター・松川プラント2024年2月稼働開始
グリーン電力の導入	ハルナ・タニガワプラント 2022年12月よりグリーン電力使用開始
生産効率見直しによるエネルギー効率改善	充填スピードUP及び非稼働時間削減によるエネルギー原単位削減

エネルギー原単位換算原単位の推移



※2023年7月より、ハルナウォーター(安曇野プラント・松川プラント)のグループ化に伴い、2023年7月実績より反映しています。

環境配慮資材の取り組み

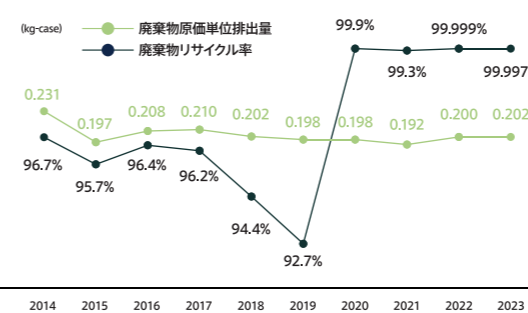
03

目標 廃棄物の1ケースあたり
排出物を年平均1%以上削減、
リサイクル(再資源化)率99.9%

● 持続可能な消費形態の実現

目標項目	2023年度
バイオマスラベルの取組み	バイオマスラベルアイテム数前期比+1アイテム
ラベルレスの取組み	ラベルレスボトル採用アイテム数前期比+1アイテム
軽量化ボトルの使用	2Lボトル最軽量47gを採用 全プラント展開中
廃棄物削減・リサイクル化	持続して99%達成

【年度】廃棄物再資源化率の推移



持続可能な消費生産形態の実現

04

● バイオマスラベルの開発

2022年度より累計27万ケースの切り替えで、約1,820kgのCO₂削減効果ができました。

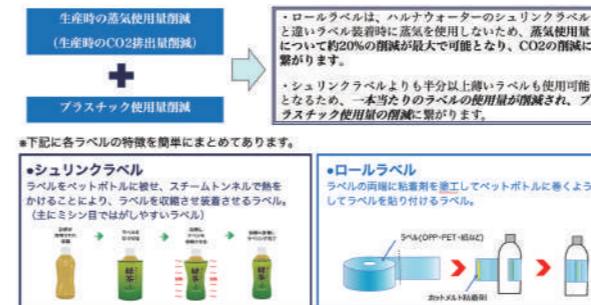


● ラベルレスへの取組み

バイオマスラベルを使った、ルカフェシリーズ④ラベルレス導入2,000,000ケース達成! 認知度は上がって来ており各アイテムの販売数量の増加と共に顧客ブランドの増加も進んでいます。

● ハルナウォーターロールラベラーの設備口の導入

ラベルを薄く、かつ蒸気使用量を削減し、資材コスト・エネルギーコスト両面でのコストダウンを目指します。



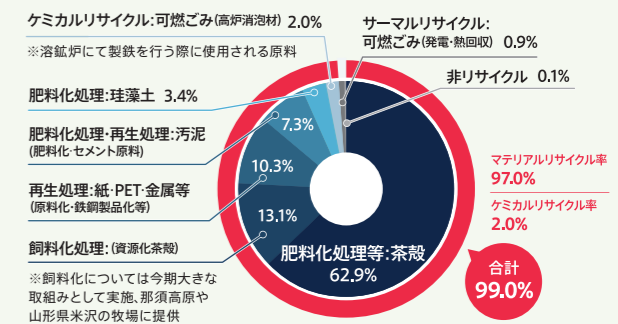
● ボトル軽量化

商品容器(PET:ポリエチレンテレフタレート)のリサイクルボトルへの取組み

● ボトルの軽量化と一部のボトルでリサイクルボトル使用する取組みを進めています。資源の抑制を目指し、軽量化では、2Lボトル47g軽量化・525mlボトル22gへ軽量化にとりくみました。

● 軽量(減容)キャップ使用により資源の抑制

● 年間成果



主な処理方法における排出物の詳細

マテリアルリサイクル

- (廃棄物を製品原料として再利用するリサイクル手法)
- 肥料化処理: 茶殻
 - 肥料化処理・再生処理(焼成): 汚泥(肥料化・セメント原料)
 - 再生処理: ダンボール・紙類(再生ダンボール・新聞、包装用紙) フィルム樹脂・硬質樹脂容器(原料化) ペットボトル・キャップ(繊維原料・原料化) ドラム缶・一斗缶・金属くず(鉄鋼製品化)

サーマルリサイクル

- (廃棄物を焼却したときの熱エネルギーを再利用するリサイクル手法)
- 発電・熱回収: 可燃ごみ(発電燃料・焼却熱回収)

ケミカルリサイクル

- (廃棄物を化学的に処理し、他の化学物質に転換して再利用するリサイクル手法)
- 高炉消泡材: 可燃ごみ

自然保護活動の取り組みへの参加

05

● 経団連自然保護基金

ハルナグループでは加盟する一般社団法人日本経済団体連合会(経団連)、経団連自然保護協会により運営されている経団連自然保護基金への法人寄付を行っています。



● 「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」に参画

ハルナグループは経団連自然保護協会が主催する「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」への参画を決定いたしました。一般社団法人日本経済団体連合会と経団連自然保護協会が提唱する「経団連生物多様性宣言・行動指針」を構成する取り組み、また全体の趣旨に賛同するものです。



ハルナグループは、大気や水など様々な自然の恵みを利用して事業活動を行っています。これら自然の恵みや自然環境を事業活動によって破壊することなく、後世に引き継いでいく責任があることを認識し、自然共生社会へ貢献することを掲げています。今後も自然との共生、生物多様性保全のため、近隣地域の他、サプライチェーン全体に活動範囲を広げてまいります。

人財のためにできること

持続的なウェルビーイングの向上、DEI(多様性、公平性、受容性)への取り組みを通じて社員一人ひとりに公平な土台をつくとともに、個々が持つ多様性を最大限活かすことが企業の価値創出につながるという考え方を目指しています。

comment

ハルナビレッジ株式会社 人財戦略Unit プリンシパルオフィサー 相川 浩之



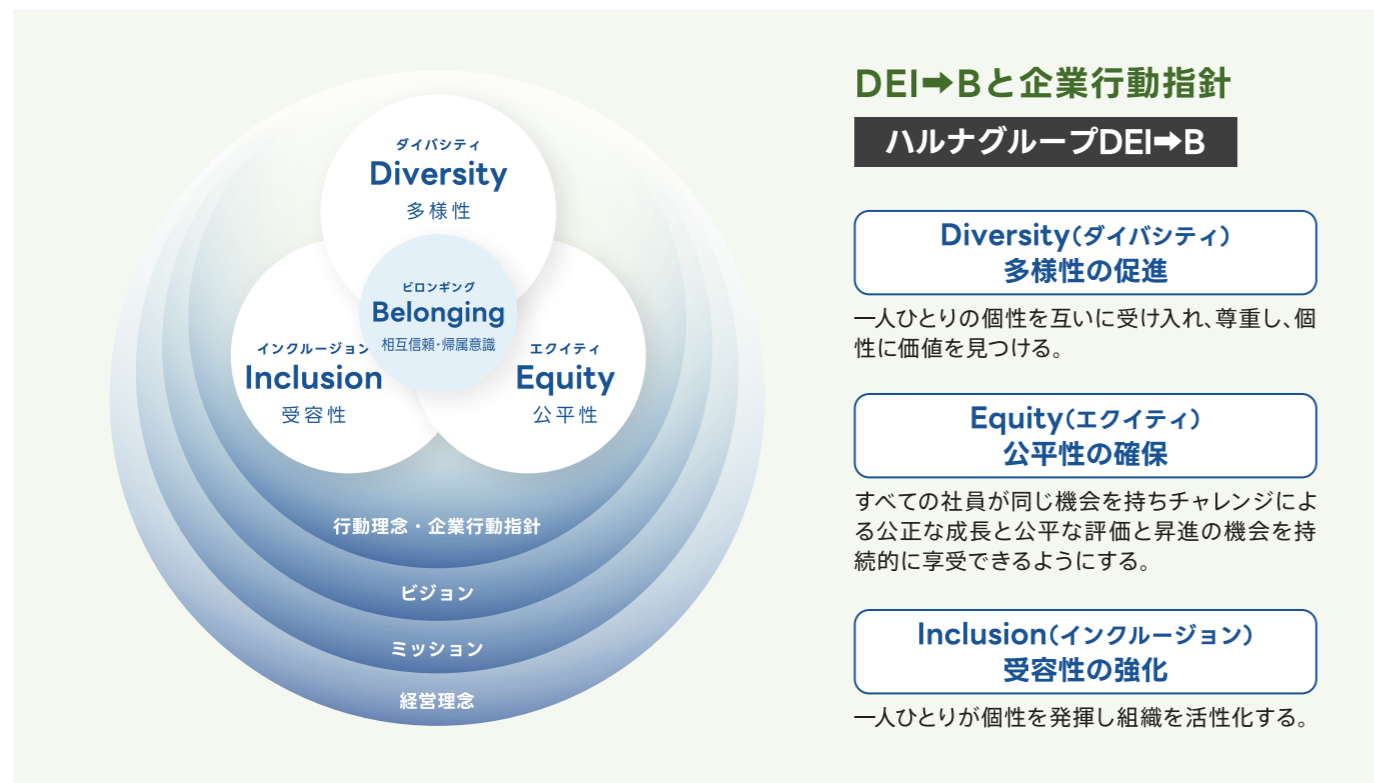
ハルナグループでは、「社員の幸せなくして顧客の満足なし」という信念のもと、社員一人ひとりのウェルビーイング向上が企業の持続的な成長につながると考えております。DEI(多様性、公平性、受容性)への取り組みを通じて各々の社員が活躍できる環境をつくり、企業の価値創出につなげてまいります。

ハルナグループのミッション

市場と顧客の変化に迅速に対応し、現在の顧客と新たな顧客に高品質な飲料製品の開発・製造・物流を通じて、顧客と消費者が感動し満足する価値の創出を継続し続ける

ハルナグループ「DEI→B」

このミッションを遂行するために、一人ひとりが顧客志向・顧客満足とは何かを考え続け、それを実現する人財の育成を最重要テーマとした企業活動を目指しておりますが、昨今、社会環境が急速に変化し価値観の多様化が進むなか、一人ひとりが持つ個性や能力を最大限発揮し、イノベーションの創出につなげていくためには、今まで以上に、多様な意見に耳を傾け多様性を認め合い、それぞれが活躍できる魅力ある環境を整え経営に活かしていくことがますます重要となります。そこで職場におけるDiversity【ダイバシティ】(多様性)・Equity【エクイティ】(公平性)・Inclusion【インクルージョン】(受容性)を推進し、さらにBelonging【ビロンギング】(相互信頼・帰属意識)の醸成を目指す「DEI→B」を人財戦略の柱の一つとして取り組み、社員一人ひとりのウェルビーイングの向上を目指していきたいと考えています。



DEI→Bと企業行動指針

ハルナグループDEI→B

Diversity(ダイバシティ) 多様性の促進

一人ひとりの個性を互いに受け入れ、尊重し、個性に価値を見つける。

Equity(エクイティ) 公平性の確保

すべての社員が同じ機会を持ちチャレンジによる公正な成長と公平な評価と昇進の機会を持続的に享受できるようにする。

Inclusion(インクルージョン) 受容性の強化

一人ひとりが個性を発揮し組織を活性化する。

ハルナビジョン2026の人財KPIの達成に向けて

- 時間外労働時間一人あたり月平均20時間未満
- 有給休暇取得率100%
- 賞与一人平均支給額150万円

フレキシブルな働き方

会社が「働きやすい」環境を提供し、その中で社員個人が「働きがい」を追求できることを理想として、働き方の多様性を尊重するさまざまな取り組みを行います

働き方の多様性

社員が自分の生活リズムに合わせられる制度の構築として、休日数だけでなく、1日の労働時間を短縮し、集中力を保ち効率を高めることのできる仕組みづくりプロジェクトを組成。また、HdXでのテクノロジーの活用を迅速に実施し、1日の労働時間を短縮し、集中力を保ち効率を高めることのできる仕組みづくりプロジェクトを組成。また、HdXでのテクノロジーの活用を迅速に実施していきます。

仕事と家庭の両立支援

2022年4月から「育児・介護休業法」が段階的に施行され、パパ・ママともに産休・育休を取得しやすくなっています。ハルナグループでも子育てをしながら働きやすい環境を整えるために積極的な施策を展開しています。社内報でも育児休暇を取得したパパ・ママ社員の座談会を行い掲載し、社員が育児休暇を取得しやすく努めています。



Q 育児休暇を取得してみて休暇の取りやすさ、職場の雰囲気、周りの理解などどうでしたか？

Sさん 上の子の妊娠が分かった際に周りの皆さんへご相談をもらい、当初は1年で復帰予定だったのですが、保育園に入れなかったことと二人目の妊娠もあったので連続して第二子の産休・育休にも取得させていただきとトータル2年半いただいています。今上の子が2歳半です。気持ちとしては仕事面で、その時に担当している業務の引継ぎがきちんとできるかが不安で、例えば配合をやっていたものをいざ製造しようというタイミングだったりすると、不在時にあれ、これどうなってたんだっけ?とならないように、ご迷惑をかけないようにしないと。思っていました。私の周りの方はありがたいことに快く送り出してくださったと思います。



Q これから育児休暇の取得する方や周りの方、皆さんにお伝えしたいことをどうぞ！

Nさん 男性で育児休暇をとるということがまだなじみがないのと、加えて私の場合は製造部門という点なども言いづらいこともあるかもしれませんが、取得できたら奥さんや家族が助かると思っています。実際に、1か月でも取得してごどもと家族の大事な時間をつくることのできたのは本当によかったもので、ぜひ同じような立場の方も育休をとってほしいですね。

障害者雇用支援

ハルナグループでは、常にチャレンジ精神をもって、積極的に企業活動を推進しています。そして、障がいをお持ちの方が働きがいのある職場環境のなかで活躍しています。私たちは、「社員の幸せなくして顧客の満足はない」との考え方のもと、社員の経済的・精神的・時間的なゆとりと豊かさを実現させ、企業の生産性と社員満足度双方の向上に努めます。また、社員一人ひとりの人権を尊重するとともに、一人ひとりが個性と意欲と能力を最大限に発揮できる職場を目指します。ハルナプロデュースでは、2022年8月より、群馬県労働政策課主催の障害者のテレワーク支援事業に、「令和4年度モデル企業」として推薦を受け 参画し、障害者のテレワーク雇用の導入いたしました。その取り組み内容の事例紹介動画が群馬県のホームページ、YouTube チャンネルに公開しています。



定年後でも役割に応じた適切な処遇制度を導入

社員一人ひとりの「想い」を起点とし、成長し続ける会社に向けてハルナグループでは年齢に関わらず活躍できる環境づくりをさらに加速するため、定年年齢を65歳まで引き上げ、専門的な知識やスキルをもち、高い貢献意欲のある社員がモチベーション高く働き続ける環境を整備するとともに、後進育成の強化を目的としたものです。また定年後の再雇用という形で60歳以降の社員が継続して働ける環境づくりに取り組みキャリア・能力・健康・気力を十分に判断した給与体系の実現を目指し役割に応じて適切な処遇が実現できる仕組みを強化してまいります。

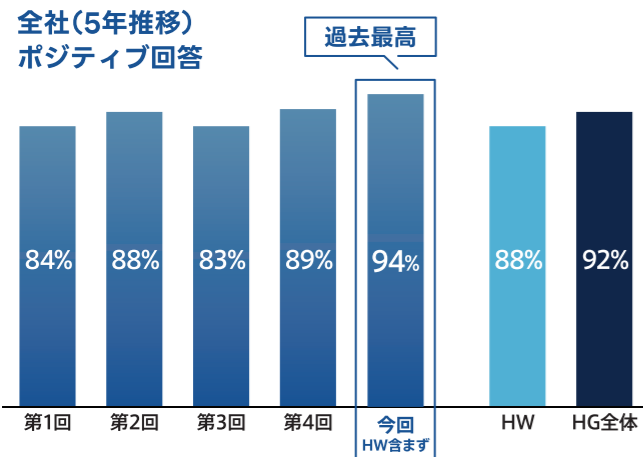
心と体の健康

社員エンゲージメントサーベイ

ハルナグループでは2019年度から毎年「社員意識調査」を実施し、社員の意識・意見の吸い上げ、各社の特徴や各社間の意識の差、グループ全体の課題把握に取り組んでいます。
また、結果を詳細に分析し、ポジティブ内容を会社の取り組みに生かすアイデアを出しています。一人ひとりと面談を行い、その要因を明らかにすると共に、ポジティブ思考に変わっていただけるよう、社員一人ひとりのエンゲージメントの向上、組織力の強化に努めています。

過去5回のエンゲージメントサーベイ実績

A.エンゲージメント ドライバー：誇り
(4.そう思う および 3.まあそう思う を選択)ポジティブ回答の推移



独身社員に対する福利厚生制度の導入

少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少や人手不足が深刻化する中、共働きや共子育て等を考え、独身社員の出会いが、長期的な少子化等の社会的課題解決の糸口につながると捉えています。「多様な働き方や人財採用や人財定着に注力し独身社員へ向けた取り組みとして、新たにAI縁結びナビゲーションアプリ『Aill goen』を導入いたしました。

独身社員に対する福利厚生制度

株式会社Aill (エール) の「Aill goen」

従業員の仕事ライフシナジーを推進する Well-being サービス「AI縁結びナビゲーションアプリ」

従業員が安心して働き続けられるよう、心と体の健康をサポートするサービス

健康で安全な働き場の実現を推進するプラットフォームによる安心・信頼のサービス

ご利用いただいている企業

1,000社以上が提供する Well-being サービス

災害時の社員への見舞金支援

本社プラントのある群馬県の高崎市と前橋市伊勢崎市地区等において、2023年7月31日に突風及び降雹被害にあわれた社員へ見舞金を支給いたしました。



社内報

ハルナグループでは2020年度からコミュニケーションの活性化や、モチベーションアップにもつながるように社内報を発行しています。社員インタビューなどの企画では個人としてや社員として大事にしていることなどを取材し社員同士の交流に活かしています。また企業文化を伝えることも大切にしています。

担当者の声 ハルナビレッジ株式会社 社長室 岩織 由布子

今年4年目を迎える社内報ですが、どうすれば社員の興味を惹き、最後まで見てもらうことができるかを様々な立場にたって考えるようにしています。タイムリーな情報や、飽きがこないような内容や企画、試行錯誤を重ねた結果、読んだ感想を直接もらえるようになってきました。1人でも多くの社員へ有益な情報を伝えるために、社内外にアンテナを張って続けていきたいと思っています。



社内公募

ハルナグループの全社員が業務の延長上としてではなく、全社員が隔たりなく楽しみながら参加でき、自社への理解やエンゲージメントを強化できる公募として2021年度から始めました。第1回は「キャッチコピー」第2回は「フォトコンテスト」そして2023年度の第3回は「キャラクターデザイン」の公募を行い95点もの応募がありました。
第3回のキャラクターデザイン最優秀賞として選ばれた作品「ブルーピリィ」は、水や空を連想する「青」大地の恵みから生まれ自然と調和する力を持って「清い木」を掛け合わせ木と水の妖精。子供達に親しみを持ってもらえるかわいらしさにこだわったという作品です。



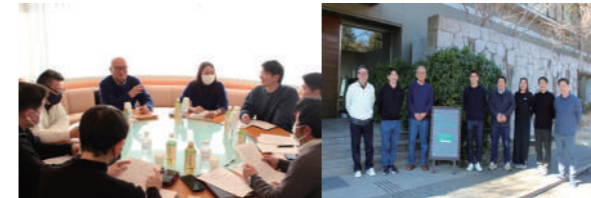
⑥ ブルーピリィ



人財育成と学び合う文化づくり

ビジネススクール

ハルナグループでは、創業時より「企業価値を生み出す人財」の育成に取り組んでおります。専門分野の体系的知識の習得とそれ以外の分野の見識も高めることを目的として、2005年4月にビジネススクールを開講いたしました。広い分野の見識を高め、また専門分野の体系的知識を習得することを目的として、広くハルナグループ全体の人財育成の柱ととらえ、従来の内容に加え、次世代人財の育成や、企業文化の醸成、HdX人財の育成などについても織りこみ一本化しています。



④ ミドルマネジメント実践コース合宿の様子

7コース

1. トップマネジメント追究コース
2. ミドルマネジメント実践コース
3. 企業文化研究コース
4. ものづくり探求コース
5. 英語力養成コース
6. HdX推進コース
7. サマースクール&ウインタースクール

ライフプランと資産形成の推進

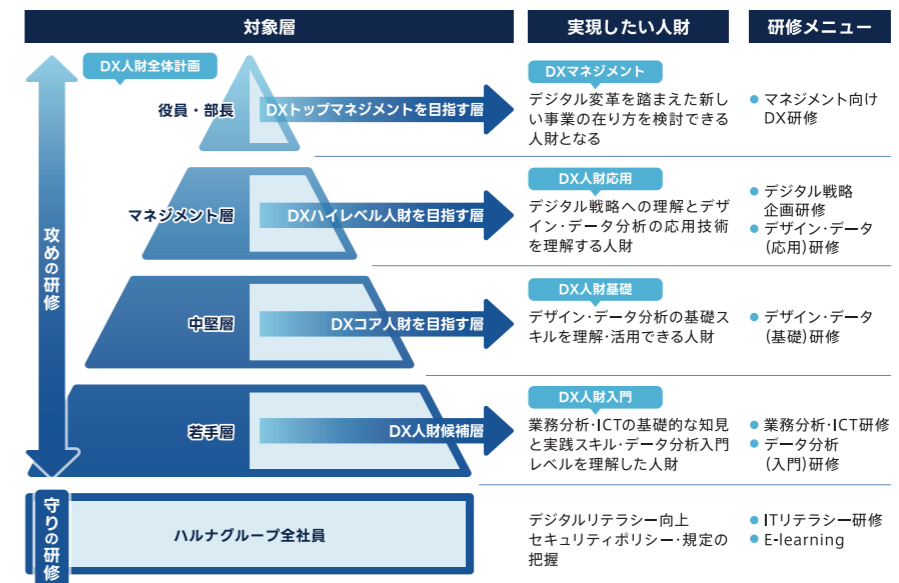
ハルナグループでは、福利厚生の一環として、社員の生活を支え働くことをより充実させるため、より豊かなライフデザインの支援や従業員持株会制度、確定拠出年金制度およびその掛金を個人で上乗せする給与財源DC制度、財形貯蓄制度や職場つみたてNISA導入などで社員の資産形成を支援してまいりました。そして2023年度からは新たに金融や生命保険会社の専門家をお迎えし「ライフプランセミナー」を開催しています。社員が豊かなライフデザインを実現することを応援しています。

セミナーの主な内容

- 20歳、結婚、子育て、退職、老後の生活、税金の負担、資産形成の重要性を学ぶ。
- 生涯で約1,400万円の赤字！ 資産形成の重要性を学ぶ。
- 7人1組を単位、自らのライフプランと資産計画を立てる実践型セミナーです ■
- 自らのライフプランを実際に見る
- 生涯収入見込みの検証方法
- 資産計画とリスクへの備えについて考える

デジタル人財教育

2022年3月よりハルナグループ全社員のデジタルリテラシー等の基本的な知識の向上を図る取り組みを実施し、ICT入門、情報セキュリティ、DX入門のカリキュラムをeラーニングシステム【etudes】を用い、デジタル人財育成に向けて取り組んでまいりました。今後もHdXプロジェクトの推進とともに各部門別の専門的な研修として生成AIやツール活用の「攻めの研修」に加えて、ハルナグループ全社員のデジタルリテラシー等の基本的な知識の向上を図る「守りの研修」の取り組みを実施し、デジタル人財育成に向けて取り組んでいく方針です。



幸せのために・社会のためにできること

ハルナグループは安全安心な飲料づくりをとおして皆さまの幸せな未来に貢献します。そして責任ある企業として、豊かな社会の実現に向けて地域活動や社会貢献・文化活動に力を入れています。

01 ハルナウォーターと松川村の災害時の飲料水の提供についての協定を締結

ハルナグループのハルナウォーター社が位置する長野県松川村と「災害時における飲料水提供に関する協定書」の調印式を行いました。本協定書は、災害により飲料水が不足した場合、松川村から要請に伴い、無償で非常用飲料水を提供するものです。今後もより一層、地域に貢献できるよう取り組みを進めてまいります。



02 能登半島地震被害に対する七尾市への支援飲料を提供

当社では、令和6年能登半島地震の被災地域の皆さまの支援にお役にいただくため、当社のミネラルウォーター「安曇野の自然が育んだ天然水550ml」200ケースを自社車両にてお届けいたしました。被災地域が一日でも早く復興し、被害を受けられた皆さまが日常の生活を取り戻されることを心よりお祈り申し上げます。



03 各地域にて環境保護活動への取り組み

● 谷川岳エコツーリズム基本理念



当社は、地域の自然資源を保全し活用するまちづくりを目指して、工場のある群馬県の高崎地域・榛東地域・水上地域と、和歌山地域の清掃活動を実施しています。また新たに2023年度は上信越高原国立公園の谷川岳を中心とする約64平方キロメートルという広大なエリアにおいて、自然の保全と活用、歴史・文化にふれあう機会の提供、地域振興への貢献を同時に実現する谷川岳エコツーリズムに参加いたしました。



▲ 谷川岳エコツーリズム・環境保護活動の実施(地域清掃活動) ▲ 唐沢川清掃活動 ▲ リフレッシュ瀬戸内清掃活動

04 ぐんま緑の県民基金への寄付

私たちの生活に恵みをもたらしてくれる豊かな森林を守る事を目的に群馬県では、ぐんま緑の県民基金を2014年4月から導入されました。ハルナグループは、環境保全活動への取り組みの一貫として毎年寄付を行い、これからも、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献いたします。



05 献血活動

ハルナグループは2009年度から群馬県赤十字血液センター様のご協力のもと、献血車による献血活動を開始し、2023年度までの累計で1,700人の献血を実施いたしました。今後も定期的に続けていきます。



06

国境なき医師団への寄付

国境なき医師団は、紛争や自然災害、貧困などにより命の危機に瀕する人びとに医療を届ける、民間で非営利の医療・人道援助団体です。世界では1億人以上が紛争や迫害、暴力などで住む家を追われ、難民や国内避難民として避難を余儀なくされています。また、大地震等の自然災害の発生により、世界各地で清潔な水や物資を得ることが困難な状況が継続し、保健医療システムの崩壊にもつながっております。こうした状況を受け、当社は、国境なき医師団に対して、寄付による支援を実施し国境なき医師団の医療・人道援助活動を支援してまいります。



エコキャップ活動

ペットボトルのキャップを収集し、そのリサイクルで発生した利益を、発展途上国の子ども向けワクチン代として寄付することを掲げているペットボトルキャップ支援活動を推進しています。



2023年度までの累計で1,243,812個のキャップをNPO法人エコキャップ推進協会に寄付しました。

2023年度支援数 **115**名分 (115,319個)

2023年度下期からハルナウォーター安曇野/松川プラント活動開始

2023年までの累計数

1,243,812 個

||
【ワクチン累積支援数】

1427.5 名分

08

安心・安全に配慮した商品へのこだわり

ハルナウォーターの「安曇野の自然が育んだ天然水 550ml」が世界的な品質評価機関であるモンドセレクションより「優秀品質金賞」を授与されました。

モンドセレクションは1961年の創設以来、消費生活製品を評価し、品質に応じ銅、銀、金と言った優秀品質賞をそれらの商品に授与しています。これら優秀品質賞は、専門家によって評価され、その高品質を表彰する機関であり、消費者ならび生産者にとって様々なメリットのある賞と認識されています。これからもお客様にご満足いただける味や品質はもとより、素材の安全・安心にも配慮した商品をお届けできるように、より一層努めてまいります。



09

顧客満足度調査アンケートの実施

ハルナグループは、創業以来、お客様満足度を第一に考え、お客様との双方向コミュニケーションを大切にしています。そこで2021年から2年毎にステークホルダーの皆様への満足度調査を実施し、皆様からいただくご意見、ご要望に真摯にお応えし、業務の改善につなげるなど、広く企業活動に反映させるように努めています。2023年度は、外部機関となる日本能率協会様よりご協力をいただき、公平で公正な調査・分析を実施し、改善の取り組みを強化しています。

BtoB CS 調査アンケート結果より社員の感想

今回、CS調査アンケートを実施させていただき、高いご評価をいただくことが出来ました。

非常に光栄なことではございますが、この結果に甘んじることなく、「我々はステークホルダーの皆様へ常に支援していただいている」という気持ちを常に忘れず、今後も更なるコミュニケーション向上に努めて参ります。

ハルナビレッジ株式会社/財務経理戦略Unit リードオフィサー 尾形 大希



10

メセナ活動
榛名美術記念公園「美術の館」「彫刻の杜」

2020年4月ハルナグループの創業者である故青木清志が、社員の感性や創造力を高め「審美眼」を養うために、グループ内の各拠点に美術品を展示する「ちいさな美術館」を設立いたしました。

その後、美術文化の発展へ寄与するため、また社会貢献の一環として一般の皆様にも無料で開放しご見学いただきたいという創業者青木の想いから、榛名美術記念公園「美術の館」「彫刻の杜」を設立いたしました。

現在、榛名美術記念公園はハルナグループCEOの青木麻生が館長として引継ぎ、館内にはピカソのリトグラフなどおよそ80点が展示され、庭にはゼウス像など約10点の彫刻作品が並ぶ公園として、地域の方々の憩いの場となっています。

